

本のぽけっと

2021

5・6年生に
おすすめする
新しい本
発行：市川市中央図書館

ハロー、マイフレンズ

大矢純子／作 みしまゆかり／絵

朝日学生新聞社



東京生まれ、浅草育ちの池田拓海は、とつ然オーストラリアへ引っこすことになる。

引っこす前に、英会話スクールに通ったものの、教科書通りにはいかない。はじめて学校に行った日、みんなは「タクミ！」とよびかけてくれたけど、拓海はよび返すこともできなかった。

言葉や習慣がちがう国でのコミュニケーションで一番大切なのは、相手の『名前』をよびかけること。拓海は、まずクラスメイトの『名前』を覚えることから始める。

前作『グランパと僕らの宝探し』の六年後をえがいた続編。



春をさがして カヌーの旅

大竹英洋／文・写真

福音館書店



ここは北アメリカ大陸北部に広がる森と湖の世界「ノースウッズ」。五月になり湖の氷がとけ、ぼくはともだちのウェインとカヌーの旅にでかけることにしました。カヌーの旅といっても、いつもカヌーをこいで進むわけではありません。進めないところはカヌーをかついで運び「ポルタージュ」と呼ばれる踏み跡を歩きます。ポルタージュを歩くのは人間だけではないようで、動物のフンなどの落とし物を見つけることもあります。

だんだん暖かくなり、花が咲き、いよいよノースウッズに春がやってきました。



わきだせ!いのちの水

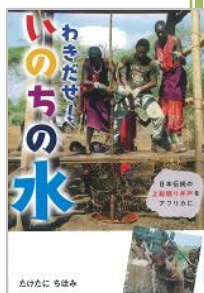
日本伝統の上総掘り井戸をアフリカに
たけたにちほみ／著 フレーベル館



不衛生な水しか飲めないアフリカの難民キャンプや学校で、1987年から井戸を掘ってきた大野篤志さん。千葉伝統の「上総掘り」を現地に合わせ改良して作った井戸は120戸です。

大野さんは2000年に井戸を掘った習志野市、千葉市、そして市川市立中山小学校の子どもたちに世界にはきたない水しか手に入らない人びとがたくさんいるという厳しい現実についての話をしています。

世界中の多くの人に「きれいな水を」という熱意が伝わってくる一冊です。



きつねの橋

久保田香里／作 佐竹美保／絵 偕成社



平安時代、十五になった平貞道は京の都、源頼光の屋敷で郎党として働いていた。ある日、名をあげたい貞道は、人を化かす白いきつねを捕まえた。しかし屋敷の郎党たちに追い回されているのを見かねて逃がしてやる。そのきつねは葉月といい、幼い齋院に女房として仕えていた。助けてもらった葉月は、貞道とお互いに助け合う約束をする。その後貞道は、失敗しながらも葉月のおかげで武士の名声をあげ、また齋院を助けるために、活やくする。



フレンドシップウォー

こわれたボタンと友情のゆくえ

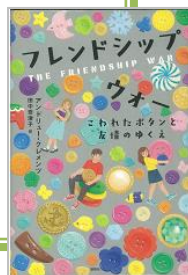
アンドリュー・クレメンツ／著

田中奈津子／訳 講談社



小学校六年生のグレースは、夏休みにおじいちゃんが買い取った古い縫製工場ほうせいこうじょうで、たくさんのボタンを見つける。二十七箱の段ボール箱につまったボタン全部をもらったグレースが、アメリカの産業革命さんぎやうかくめいの授業で、そのボタンの一部を並べると、学校中で爆発的なボタン・ブームぼくはつてきが巻き起こる。

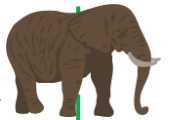
ところが、それをきっかけに二年生から親友だったはずのエリーとボタンをめぐる戦たたかいが始まってしまう。



ゾウ

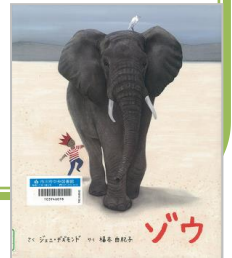
ジェニ・デズモンド／さく

福本由紀子／やく BL出版



陸りくでいちばん大きなほ乳類にゅうるいであるゾウ。長い鼻に大きな耳。ゾウみたいいろいろなことができる鼻をもつ動物はいない。大きな耳は感情かんじょうを表す時に役立つ。友だちとあいきつをするときはうれしそうにパタパタする。ゾウの家族は子どものゾウをみんなでそだてる。一頭のゾウが死ぬと何日間もそばによりそっている。

ゾウについて迫力はくりよくある絵でかかれています。科学絵本です。



七不思議神社

緑川聖司／作 TAKA／絵

あかね書房



小学五年生の夏休み、リクは父さんの実家のある七節町ななふしちやうに引っこしてきた。ここにある七節神社ななふしじんじやは七不思議神社とも呼ばれていて、旧暦きゆうれきの七月七日に、この町に伝わる七不思議を絵馬えうまにかいて神社におさめると、願いがかなうらしい。

ばあちゃんにすすめられて神社にやってきましたリクが神社の鈴すずを鳴らすと、木の上からタクミという男の子が落ちてきた。タクミの話はなしを聞いたリクは、



今日けふがその七月七日だと知り、タクミといっしょに七不思議を集めることにする。

シリーズ三冊あります。

希望の図書館

リサ・クライン・ランサム／作

松浦直美／訳 ポプラ社



1946年のシカゴ、ふるさとのアラバマをはなれ、ラングストンと父さん二人きりの生活が始まった。町の人はいつもいそいでいるし、クラスメイトのライモンは「南部なんぶのいなかもん」という。

ある放課後ほうかご、ラングストンはだれもが入ることのできる図書館を見つけた。そして同じ名前の詩人が書いた本むちゆうに夢中になる。「ぼく以外のだれかが、ぼくのことをわかってくれている感じする」

本との出会いから、ラングストンの毎日が変わっていく。



2019年1月以降いこうに出版されたおすすめの本です。市川市の図書館でかりることができます。

中央図書館 平田図書室 自動車図書館 行徳図書館 信篤図書館 南行徳図書館 市川駅南口図書館

